



NaRDAの受賞者ら

NaRDAの受賞者ら
が、最優秀賞を獲得した「能登半島地震」
による地盤変形を防ぐため、
斜面の傾斜を防ぐ構造を実現した。
この技術は、多くの人々に支持され、
多くの賞を受賞しています。

伊藤裕二社長によると、「能登半島地震」
は、多くの人々がこの技術によって
守られたと感じています。また、この技術
は、他の地域でも広く採用され、多くの
人々に恩恵をもたらしています。

第12回ナショナル・レジリエンス・デザインアワード

国土強靭化の活用事例を評価、最優秀賞に内外エンジニアリング

2025年の第7回 地方創生・国土強靭化セミナーを振り返って
国土強靭化という言葉自体がもう一般的に知られるようになってきている。参加者は我々のユーザーがほとんどだが、それでも地方創生や国土強靭化という意



伊藤裕二社長

フォーラムエイトでは2019年から、全国中核都市で各自治体でのインフラ分野での取り組みの紹介と、デジタルを通じた貢献を目的とした「FORUM8地方創生・国土強靭化セミナー」を毎年開催している。2026年は「サステイナブルな社会、新しい地方経済生活環境創生へ」をテーマに、過去最多となる全国22カ所で有識者による講演や、設計・解析、3DVRなど、新しい地方経済・生活環境創生を後押しする最新技術やソリューションを紹介する。同社の伊藤裕二社長に2025年を振り返つてもうと共に、2026年に向けた意気込みを聞いた。

フォーラムエイト・伊藤社長、国土強靭化への思い語る

「より広い活動と技術の周知が重要」

いろいろな方からもコメントをもらつたが、避難訓練は相当やついていても科学的なアプローチはほとんどやつてないからこれまで単に経験則に頼っていた。それが新しい方針で作れるようにならなかったところも含めて、まだ始まつたばかりだ。これが徹底されたので、それが何よりも嬉しい。人的被害がほどんどなかつたが、メディアの報道は過去最大のもののがかなり徹底していたところが大きかつた。

もう一つは、地震時の対策が必要ではなくて、その対策が必要なところでは、地元の方々の日頃の計画があるという意味でも関わりがあり、防災意識を高めるということにもつながっていると思う。

2025年を振り返ると、西日本を中心に豪雨や台風災害が頻発した印象がある。フォーラムエイトでは各種ソリューションも展開されているが、印象に残る活用事例はあるか

2025年度インフラDX大賞国土交通大臣賞を受位

受賞した熊本県玉名市の水害への対策や取り組みが印象的。浸水時と避難方法をUC-win/Roadでリアルに再現した3DVRを使ってシミュレーションする取り組みで、大雨の時も皆さんがよく活用して避難方法の周辺を実際に住まわれて

少しだでもお客様が来や

どろぐらいの交通や人流の調査から始まって、基礎

データを作つて、ある程度

データを使って、三次元での群衆流动と

かのデータを解析した結果

を示して、避難訓練や実際

対策つたり、地元優先

もあつて取り組み自体は早く

からお客さん同士のコミュニケーションを取れるよう

うのは、我々のVRや

CGソフトをベースにし

ている。だから、そこで発

表されたアイデアは、ソフ

トに反映することができる

日本はAIが遅れ

ている印象があるが、今後他

との連携は

AIの活用が話題となつた。御社でも「F8-AI

MANGA」をリリースさ

れたが、振り返った印象や

設はローカル性が高く、材

料やその風土とか環境、

ミナーがこの名前になつて

から8回目だが、その前は

AIがスタートした。過去三十年分の

データ資産が使えるとい

う。それをAIに学習

させてサポートのベースと

3DVRによる除雪

システムから取得

した位置情報とUC-

win/Roadを連携

ういったデータを読みやす

い方からもコメントをも

らつたが、避難訓練は相

やついていても科学的なア

プローチはほとんどやつて

ないからこれまで単に経

験則に頼っていた。それが

こういったところも含めて

難しい計画が作れるようにな

る。また始まつたばかりだ

が、それをどう周知させる

ことが重要となる。

そういった意味で認知さ

れてきた印象はある。防災

院の計画があるという意味

でも関わりがあり、防災意

識を高めるということにも

つながっていると思う。

2025年を振り返ると、西日本を中心に豪雨

や台風災害が頻発した印象

がある。フォーラムエイト

では各種ソリューションも

展開されているが、印象に

残る活用事例はあるか

2025年度インフラDX大賞

受賞した熊本県玉名市の

水害への対策や取り組み

が印象的。浸水時と避難

方法をUC-win/

Roadでリアルに再現

した3DVRを使ってシ

ムコンテスト・オン・クラ

ウド」では準グランプリも

受賞した。

実際にここに住まわれて

少しだでもお客様が来や

どろぐらいの交通や人流

の調査から始まって、基礎

データを作つて、ある程度

データを使って、三次元での群衆流动と

かのデータを解析した結果

を示して、避難訓練や実際

対策つたり、地元優先

もあつて取り組み自体は早く

からお客さん同士のコミュニケーション

を取れるよう

うのは、我々のVRや

CGソフトをベースにし

ている。だから、そこで発

表されたアイデアは、ソフ

トに反映することができる

日本はAIが遅れ

ている印象があるが、今後他

との連携は

AIの活用が話題となつた。御社でも「F8-AI

MANGA」をリリースさ

れたが、振り返った印象や

設はローカル性が高く、材

料やその風土とか環境、

ミナーがこの名前になつて

から8回目だが、その前は

AIがスタートした。過去三十年分の

データ資産が使えるとい

う。それをAIに学習

させてサポートのベースと

3DVRによる除雪

システムから取得

した位置情報とUC-

wi

n/Roadを連携

ういったデータを読みやす

い方からもコメントをも

らつたが、避難訓練は相

やついていても科学的なア

プローチはほとんどやつて

ないからこれまで単に経

験則に頼っていた。それが

こういったところも含めて

難しい計画が作れるようにな

る。また始まつたばかりだ

が、それをどう周知させる

ことが重要となる。

そういった意味で認知さ

れてきた印象はある。防災

院の計画があるという意味

でも関わりがあり、防災意

識を高めるということにも

つながっていると思う。

2025年を振り返ると、西日本を中心に豪雨

や台風災害が頻発した印象

がある。フォーラムエイト

では各種ソリューションも

展開されているが、印象に

残る活用事例はあるか

2025年度インフラDX大賞

受賞した熊本県玉名市の

水害への対策や取り組み

が印象的。浸水時と避難

方法をUC-win/

Roadでリアルに再現

した3DVRを使ってシ

ムコンテスト・オン・クラ

ウド」では準グランプリも

受賞した。

実際にここに住まわれて

少しだでもお客様が来や

どろぐらいの交通や人流

の調査から始まって、基礎